

♡ちっちゃい♡

# は～あと通信



発行：川崎市中央療育センター広報委員会

すがすがしい秋晴れの今日この頃、皆さまいかがお過ごしですか？

今回は、入所、言語聴覚士（ST）、通園から、最新情報をお伝えします。

それでは、今月号の♡ちっちゃい♡は～あと通信をご覧ください！

## 入所だより

少し前の話になりますが、7/27（金）に入所で夏祭りを行いました。

男の子は甚平、女の子は浴衣に着替えて、おめかしです。

毎年、女の子達は浴衣を着るのをとても楽しみにしています(\*^o^\*)

当初はお天気が心配されていましたが、みんなの願いが通じたのか、

夜まで天気が崩れることなく、園庭と駐車場で出店や発表を楽しみました★

今年は食品関係の出店に力を入れ、毎年恒例のタコ焼き、かき氷に加えて、

新メニューのタコライス、チョコバナナパフェなど、大好評(^o^)

厨房の皆様、ご協力ありがとうございました！

夏休みの素敵な思い出の1つになりました♡



# リハビリテーション部だより



## 【ことばかけのヒント】～ST(言語聴覚士)より～

日々のお子さまへのことばかけ。どんなことを、どのようにと、悩んだことのある方もいるかもしれません。今回、ご紹介することが、普段、お子さんにことばかけをするときのヒントになればと思います。

### ことばかけで大切なこと

お子さまが何を見ているのか、何に興味があるのか…  
まずはお子さまをよく観察してみましょう。  
大人が教えたいものに無理に注意を向けさせて話しかけるのではなく、  
お子さまが興味を向けているものについて話しかけましょう。

### ことばかけのヒント

#### ○日常生活の中での繰り返し

特別なことをしようとしなくても、ごはん、遊び、お風呂…  
日常の中に言葉かけのきっかけはたくさんあります。  
日々の生活を題材にすることで、毎日繰り返して積み重ねていきましょう。

#### ○お子さまの気持ちを代弁する

美味しそうにご飯を食べていたら「おいしいね」、  
どこかにゴチンとぶついたら「いたいいたい」と、  
お子さまの気持ちを言ってあげましょう。  
自分の気持ちを分かってもらえたという安心感は  
コミュニケーションの土台となっていきます。

#### ○お子さまのことばを広げて返す

お子さまが言ったことばに1つ加えて返したり、  
1つレベルアップしたことばのモデルを聞かせたりするのもいいですね。  
例：お子さま「ジュース!」→大人「ジュースちょうだいなのね」  
お子さま「あっ ブーブー」→大人「くるま、くるまがみえたね」

#### ○まちがえたことばはさりげなく直す

お子さまが言ったことばに間違いがあっても、言いなおしをさせたり、  
訂正するのではなく、さりげなく正しいモデルを聞かせてあげましょう。

#### ○ゆっくり、はっきり

お子さまの聞き取りはまだ未熟です。お子さまに話すときは、ゆっくりめに、はっきりと。

### 発達段階に合わせたことばかけを

幼児語か成人語か、単語か2語文か、身振りもつけるか、実物を見せるか等々…、  
お子さまのことばの段階に合わせたことばかけを心がけましょう。  
お子さまのことばについて気になることがございましたら、ご相談ください。



# 通園だより

クラスで作成した制作をご紹介します♡



## ☆ばななくみ☆

2歳児クラスが初めてののりを使って、  
ママと一緒に楽しく作りました。  
新しいことにチャレンジし、  
達成感を感じることでできた作品です。  
うさぎの顔は、好きな表情を選んでいきます。  
お団子は両面テープで自由に貼りました。  
みんな個性があっていいですね。



## ☆ひかりぐみ☆

海の生き物を  
野菜スタンプを押して作りました。  
そして、できあがった魚たちで  
釣りをして楽しんだ後、紙に貼りました。  
元気があって楽しさ満載の  
作品になりました。



## ☆にじぐみ☆

おいしそうなかきごおりやさんですね♪  
絵の具で作った氷で氷遊びをし、  
溶けた絵の具でコーヒーフィルターに  
かき氷を描きました。  
ママと一緒に好きな色を選んで、  
冷たい感覚も楽しみながら絵の具をぬりました。



## ☆さくらんぼぐみ☆

おだんごとうさぎの目は、  
頑張ってシールや両面テープをはがして  
○の描いてあるところに貼りました。  
手先をたくさん使って作品を完成させました。  
他の部分は自由に作り、個性がでていきます。

# センター長だより

井田の山の緑もようやく色づき始め、早くもは～あとまつりの季節を迎えます。

かつて障害のある子供たちの支援は、とても限られたものでした。

通所施設でも重度の障害者や医療的なケアのある子供は

ほとんど受け入れてもらえませんでした。

利用選考は、学校と同じく4月のみで、落ちた子供は1年間空きを待つだけでした。

このため各区に地域訓練会と言う親の会とセンターが共同運営する

自主的な保育の場を作り、そこから保育園や幼稚園を目指しました。

現在のような療育センターの姿は、川崎市が全国的にも先頭を切って作り上げたものです。

そのコンセプトは障害の治療、訓練の強化ではなく、できるだけ早く、

子育ての不安を解消し、子供らしい生活環境や集団参加を進めることでした。

いまもなおこの精神は保たれているように思いますが、

ご家族は子供の成長発達する時期に何かしなければと言った気持ちを

持ってしまうことがあります。リハビリをもう少し、言葉の訓練をなどなど。

でも、人間は必ず自らの力で自らの在り様をめざして成長し発達します。

効果的な方法を取ればもう少し、もう一歩進むかもしれません。

でも、子供にとって大事なものは、健康や生活リズムの安定、体力、情緒的な安定、

親子関係や子供同士の触れ合いです。この中で成長の基本となる力が培われます。

身体の成長、健康の改善等々とても心配なことですが、

毎日が充実しているのか、豊かな生活経験を積み重ねているかが問題です。

ご家族との時間、一緒に苦労したこと泣いたこと笑ったこと、

同じ年齢の子供たちとの楽しい時間が大事なのです。

私たちも専門的な支援の充実や技術の向上に一層努めるつもりですが、

成長期の生活を大切にするような支援をご家族とともに進めたいと思っています。

